

<b>事業所名</b>	<b>グループホームメサの郷</b> (クリックすると事業者の情報にリンクします)
<b>日付</b>	平成19年 3月30日
<b>評価機関名</b>	<b>㈱東京リーガルマインド</b> (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
<b>評価調査員</b>	A:現職 看護師 資格・経験 看護師、介護支援専門員 B:現職 理学療法士 資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師(3年)
<b>自主評価結果を見る</b>	(事業者の自主評価結果にリンクします)
<b>評価項目の内容を見る</b>	(評価項目にリンクします)
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>岡山駅から車で15分ほどの場所にあり、近くにはスーパーも多く生活圏として便利なおとろであり、周辺には民家や田園もある。ホームの裏隣の公園では、地域の方がゲートボールをしたり、子供たちの遊ぶ姿を見ることが出来る。</p> <p>ホームの外観は四角い建物であるが、一步中に入ると安心で機能的な生活空間(高齢者に合わせた低めの手すり、麻痺のある方の左右どちらからも介助出来るように中央に置かれた浴槽など)があり、職員の休憩室も整っている。</p> <p>併設のデイサービスとも交流を持ち、共にイベントを楽しみ、デイサービスに来られる方を通して地域の方との交流が持てる機会もなっている。ボランティアの訪問による無料の歌謡サービスも受けられる。</p> <p>食事は入居者の楽しみの一つでホームの特徴でもあり、旬の食材を用いた豊富なメニューで、栄養のバランスも良く美味しい。</p> <p>母体法人は医療機関であり、緊密な提携関係がある。受診・住診も受けられ、緊急時には直ちに対応してもらえ、安心してホーム生活が送れる。歩いて重く近くには協働歯科医院もある。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<p>介護記録の創意工夫や各種マニュアルも整っているが、まだ、開設後間もないことなどから、介護教室の開催や関連学生の見学の受け入れなど介護力の地域への還元はこれからの課題である。</p>

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	<b>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</b>		
	<p>食事と余暇活動を大切に、入居者一人ひとりが生き甲斐を感じながら穏やかに生活できるよう支援している。職員は常に、「自分なら、自分の家族ならどうしてもらいたいか」を考え、自分がされて嫌なことはしないようにすることを心がけている。</p> <p>職員は、目の見えない方が手掴みで食べられるのを食事の内容を説明して付き添い、お箸を握って食べられるよう誘導したり、耳の遠い方とは補聴器を調整しながらコミュニケーションを図るなど、入居者一人ひとり個々に違う様々な症状に対して適切な関わりができるよう工夫し、少しでも自立を目指すよう支援している。</p> <p>入居者一人ひとりが自由で明るく生活していけることを目指し、笑顔が出るような働きかけをしている。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	<b>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<p>ほとんどの方が居間でジグソーパズルをしたり、歌を歌ったり、テレビを見たりされている。また、自室で過ごしたりお風呂に入ったりと、入居者一人ひとりが自分のペースでいたいことができるよう支援している。</p> <p>入居者の話には腰を低くして聴く姿勢が見られ、孤独感を感じないように丁寧に対応している。落ち着かない時には、ホームの周りを散歩して池の金魚に餌をやったり、近くのスーパーに職員と一緒に歩いて買い物に行ったりなど気分転換を図っている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人であることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	<b>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</b>		
	<p>入居者の過去の経験や趣味を把握し、家事や裁縫などが出来るよう誘導し、日々の生活の中でその人らしく過ごせるよう取り組み、支援している。たとえば、野菜の下ごしらえなどの調理や、洗濯物干しやたたみなど各々が集団の中で役割をもって過ごされていた。刺し子ののれん作りや玄關の木影りのメサの看板も職員と入居者が共に作られた傑作であった。</p> <p>一人でできることは時間がかかってもなるべく自分でしていただくように、職員は励ましながら根気強く見守り、入居者の自信や自立に繋げている。</p> <p>個人情報や身体拘束廃止のマニュアルなど職員の目の届く所に配置し、常に認知症の方の個人の尊厳やプライバシーに配慮したケアを心がけている。書類は鍵のかかるところに保管し、入居者の名前や写真の掲示については、入居者や家族の同意を得ている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	<b>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</b>		
	<p>研修会の報告や、法人内での勉強会を月2回開催しており、どうしても聞くことができない職員がいないように周知徹底している。休日や夜勤明けの時間を利用して、自主的に研修に参加している職員もいる。</p> <p>事故報告書があり、事故が発生したときには、原因や対策を検討し、再発防止に向けて話し合いをしている。ヒヤリハット事例がなかったため、今後はヒヤリハットも積極的に報告されるよう期待する。</p> <p>グループホームの倫理、グループホーム入居者の権利を成文化したものを職員の目の付く所に貼り、認知症ケアの心得として常に職員の意識に留めるようにし、サービスの質の向上に努めている。</p> <p>手作りの料理は、量から作り方の要点まで分かりやすく書かれたレシピがあり、料理に関して初心者の方も作りやすい。イベント時の料理も手作りされており、美味しい食事は入居者の生きがいにもなっている。</p>		